

連載

42 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (64歳・内科)

在宅訪問医は
有能だけではだめ!!
軽量で小粒が良い?



ある日、とある女性から「知人の男性(82歳)がお酒ばかり飲んで食事をせず、しんどそうだ」と往診依頼の電話がありました。急いで駆けつけてみると、木造アパートの玄関先でその女性が親切に待っていてくれました。

挨拶もほどほどにせわしなく2階に駆け上がり、案内されるまま患者さんの部屋へと向かったのですが、体重98キロの私が通ると廊下はミシミシと悲鳴をあげ、まるで何かを告げているかのようでした。(アブナイかな?)

やがて診察となり、患者さんを診てみると、アルコール依存症と肝硬変症そしてバージャー病であることが判明しました。患者さんは、独居で

寝たきり状態だったのです。食欲不振による脱水傾向もみられたため、速やかな血液検査や点滴静注補液が必要でした。お話によりますと、近所の女性がいろいろと食事介助や身の回りのお世話をしてきたらしいのですが、数日前より体力低下が著しく動けなくなったため困って当院へ連絡されたとのことでした。

早速、検査や点滴のため当院のスタッフへ連絡をいれましたが、スリムな看護師さん(失礼...?)を指名したのはいうまでもありません。

その後、患者さんは、元気を取り戻しましたが、定期訪問診療患者さんとして在宅医療で見守っています。

在宅医療を真摯に向き合うと、たくさんの学習ができました。

患者さんの「クオリティ・オブ・ライフ」「ノーマライゼーション」に関わるためには、心優しく介護医療で有能であることは当然ですが、更に住環境や経済的な面での十分な理解や知恵を積極的に出してあげられることが重要であると実感しています。

このような研鑽を積むことによって、私たちメディカルスタッフの業務向上だけでなく、人間性をも磨くことになり、良い結果がもたらされているのです。

最近では、国や行政からの強い後押しもあり、在宅医療は医療・福祉環境の本流となりました。

クオリティ・オブ・ライフ 自分の価値観や信条やライフスタイルなどを誰にも侵されることなく、自分らしい日常生活ができる。

ノーマライゼーション 老若男女、障害があるなしにかかわらず普通の生活ができる地域社会をつつていこうという考え方。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する
臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>